



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 3年経験者研修 課題等研修（道徳教育）

平成27年7月24日（金）実施

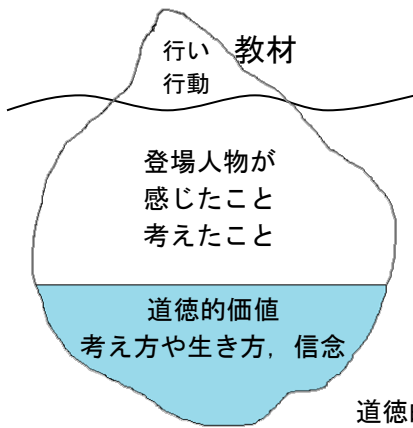
講師：畿央大学教育学部現代教育学科 島 恒生 教授

**概要** 学習指導要領の目標や重点事項に関する講義と授業力向上をねらいとした実技研修を行い、そこから道徳の時間の指導の在り方についての理解を図るとともに、読み物資料を基に分析及び学習指導案作成の演習を行う。

### 道徳の授業づくり

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

氷山にたとえると…



「読む道徳」から「考える道徳」へ

内面の力を育てることで自立した一人の人間に

- 主体的な判断
- 多面的・多角的思考
- 協働

発達段階に応じた内容で

- 子どもに「えっ」と思わせる発問
- 資料には書いていないところを「読み取る」, 「考える」, 「感じる」ための発問

道徳的価値についての自覚を深めること



授業づくりのポイント

資料に書いてあること（氷山の見えている部分）だけに着目するのではなく、

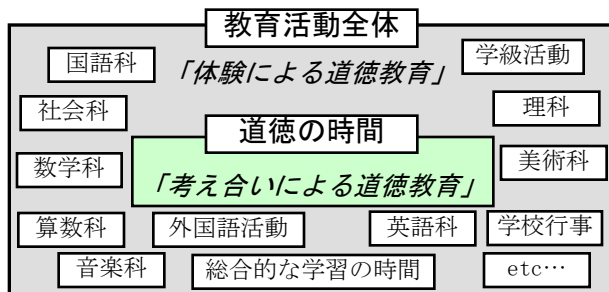
- 授業のねらいを子どもの意識で考えよう
- 子どもどうしが、話し合い考え合えるようにしよう
- 子どもたちが周りの友だちに顔を向ける状況をつくらう
- 心の中を問えるような発問をしよう
- 子どもが発見したことは子どもたちの手柄とし、子どもたちが納得できるような活動を行おう

### 道徳教育と道徳の時間

「教育活動全体での道徳教育」と「要としての道徳の時間」のつながりが重要



体験のしっばなしや机上の話し合いのみではなく、「体験」と「考え合い」を繰り返すことが、子どもの心を育てる。当然、「体験」による豊かな心の貯め込みがあるからこそ、道徳の時間の「考え合い」が深まり、その深まりが具体的な実践へとつながる。



道徳性の育成



体験による道徳教育

繰り返し

考え合いによる道徳教育



島先生監修、道徳の資料（マンガ）が見られます

<https://www.nichibun-g.co.jp/column/education/dotoku-manga/>

道徳 漫画

検索

#### 【受講者の感想】

今までは教材に描かれている姿や行動の部分にばかり気をとられていて、内面的な資質のところにはなかなか迫れていなかったように思う。考える道徳の授業にするために、しっかりとキーワードを押さえ、全体で思考を共有しながら、価値観を磨いていけるようにしたい。ことばを思考の道具として使えるような授業づくりに努めたい。

目的

生徒指導担当としての自覚を高めるとともに、生徒指導上の諸課題に対する理解を深め、生徒指導活動の充実を図る。

研修Ⅰ【講話】

「シンプルに徹底 教師が実感し率先する6つの指導」  
講師:周南市立徳山小学校 奥田 巖文 教諭

生徒指導 =  $\left. \begin{matrix} \text{子ども} \\ \text{保護者} \\ \text{教職員} \end{matrix} \right\}$  の **自己肯定感を高める**

核となる指導方針 = 徳小しぐさ

3つのきまり

- ・ 相手の目を見て聞く
- ・ 廊下を静かに歩く
- ・ だまって掃除をする

3つのしつけ

- ・ 会釈をして先に挨拶
- ・ 「はい」という返事
- ・ 履物を揃える

なぜこれらが大切であるのか、語らいながら教師も子どもと一緒に取り組んでいく

当たり前を核にした小中連携の取組

研修Ⅰ【講話】

「生徒指導の3機能を生かしたかわり」  
講師:周南市立岐陽中学校 藤永 啓吾 教諭

生徒指導 = **自己指導能力の育成**

研究主任

連携

生徒指導担当者

生徒指導主事

「わかる→できる」  
授業づくり

生徒指導の3機能

自己存在感

共感的な人間関係

自己決定

自己指導能力の育成

○ 職朝のスキルアップ  
学習会

- ・ 取組紹介
- ・ 教師のめあて

○ 生徒指導委員会の変革(指導から支援へ)

- ・ 心の畑 耕しプログラム

○ 特別支援教育の一層の充実

- ・ 環境整備(生徒・教師)

研修Ⅱ【講話】「連携したら楽になりました」

講師:周南市立徳山小学校 奥田 巖文 教諭  
周南市立岐陽中学校 藤永 啓吾 教諭

○ 実態調査から

小・中共通の課題、中学校入学後の課題からみえた、岐陽中校区の児童生徒が求めているもの

自己有用感

他者とのかわり合い

○ 各部会の取組

- ・ 取組を一つに絞る
- ・ 協議内容を教職員で共有する

各校代表者で協議 → 各校で実践 → 小・中で共有

学習指導部会

- ・ 「家庭学習の手引き」の作成
- ・ 「学習規律」の定着(姿勢を正しくして聞く)

生徒指導部会

- ・ ケース検討会議
- ・ 「小・中の密なホウレンソウ」と、「小・中の担任と一緒に家庭訪問」
- ・ 次年度入学する生徒の情報交換

特活・道徳部会

- ・ 無言清掃 → 感謝 誇り 自立

○ 小中連携の組織化

- ・ 教職員全員に当事者意識が生まれる
- ・ 継続的な取組が可能になる

○ 小中教職員によるつながりの場

- ・ 小中連携通信の発行による情報提供・啓発
- ・ 模擬授業大会
- ・ 取組の意義や指導方法を学ぶ学習会 等

○ 代表者会議の課題と対策

- 時間の確保 → メール・電話の活用
- 長期休業中の部会開催
- 仕事増による負担感 → 年間計画の作成と位置付け

研修Ⅲ【研究協議】「研修Ⅰ・Ⅱの振り返り(校区で行う今後の行動連携について)」

中学校区ごとにグループをつくり、研修Ⅰ・Ⅱの振り返りを行った。その後、現在の各校の生徒指導の取組内容について共有するとともに、それに対する更なる手立てや工夫について話し合った。研究協議を通して、今後の小中連携における取組の具体について共通理解を図った。



【受講者の感想】

- ・ 当たり前のことを価値付けて取り組むことの大切さ、小中連携のもち方について詳しく知ることができた。まずはface to faceでしっかり人間関係をつくり上げていく必要があると痛感した。